

|         |                                       |          |         |
|---------|---------------------------------------|----------|---------|
| 氏名      | 橋 本 威 郎                               |          |         |
| 学位の種類   | 医 学 博 士                               |          |         |
| 学位授与番号  | 甲 第 3 4 5 号                           |          |         |
| 学位授与の日付 | 昭和45年 3 月31日                          |          |         |
| 学位授与の要件 | 医学研究科外科系産婦人科学専攻<br>(学位規則第5条第1項該当)     |          |         |
| 学位論文題目  | 子宮頸部早期癌の臨床病理学的研究<br>(円錐切除後大割切片連切法による) |          |         |
| 論文審査委員  | 教授 小川勝士                               | 教授 妹尾左知丸 | 教授 田中早苗 |

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

子宮頸部早期癌を疑い、円錐切除術を施行し連切組織診の結果上皮内癌19、初期間質内浸潤癌6、微癌6と判明した31例につき病巣復構を行ない病巣の占居部位、拡がり、周辺像につき臨床病理学的見地より検討し次の事項を認めた。

1. 病巣占居は左側後唇、右側後唇、左側前唇、右側前唇の順で、組織学的扁平円柱上皮接合を中心として扁平上皮域5mm、円柱上皮域15mm以内に97.8%がある。
2. 癌浸潤は上皮内癌像の中に極微散在性に認められ、上皮内癌の占居部位が広がるにつれて癌浸潤の程度はすすみ浸潤癌は上皮内癌を経過してゆくものと考えられる。
3. 病巣周辺には異型上皮を認めるものが71%あり、病巣部は頸管内円柱上皮とは直接に、子宮腔部扁平上皮とは異型上皮を介して接するものが多く、また病巣部基底膜下に隣接する上皮部より小円形細胞浸潤を強く認めるものが71%あった。

備考：昭和45年1月 日本産婦人科学会雑誌、第22巻第1号に掲載

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、子宮頸部早期癌を円錐切除連続切片標本につき病巣復構を行って精査し、病巣の占居部位、上皮内癌と間質内浸潤癌及び微癌の拡がり方を明らかにしたもので、新しい知見に富み、診断・治療方式の設定に貢献するところが大きい。よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。